

我が家には、小学3年生の娘と5歳と3歳の息子がいます。仕事と育児の両立で毎日必死です。ある日、娘から携帯に電話がかかってきました。「どうしても買いたい人形があるけど、買ってもかまん？」娘にとって、お店で見る物は何でも輝いて見えるようで、その日も私の両親との買い物で欲しい物を見つけたとのこと。最近子どもたちが物を大切にしないので、しばらく買うことを控えようと夫と話をしていた矢先のことでした。「だめ」と言ってもすぐには納得しないだろうと思い、「帰ったら話を聞くから、その後買うかどうか決めよう」と答え、電話を切りました。

何かのきっかけで職場の先輩たちにその話をする機会があり、先輩たちはその話に耳を傾けてくれました。そして「物を大切にしましょう。最近、物を失くしても平気っていう子どもも多いですね」と共感してくれた後、「お嬢さんにはお小遣いをいくらあげてる？」ときかれ、ハッとしました。「1カ月に100円です。でも、買いたい物があれば一緒に買いに行きし・」

娘は初めての子どもということ

「子どもと共に」

もあり、気をつけてはいましたが、ついお小遣いのことまで気が回りませんでした。「必要がある無しじゃなく、貰ったお小遣いをどう使うかを考えさせることも大切かもね」とのアドバイスをもらい、娘の成長についていけない自分気付かされました。

こんな出来事は日常茶飯事で、子育てには悩みが尽きません。幸い私の場合は、子育ての先輩たちが周囲に多く、生のアドバイスを貰うことができます。しかし、世の中には核家族化に伴い気軽に相談できる相手もなく、一人で思い悩みながら子育てをしている人もいるかもしれません。そんな時は、私のように思い切って誰かに相談してみましょう。そうすると、親として気づかされることがたくさん出てきます。子どもが成長すると共に、自分も親として成長させてもらっているのだな、と痛感します。さて、次はどんな難題が出てくるか、子どもたちが私たちのことから巣立っていく時まで、親として共に成長していきたいものです。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会

(☎880・6569) まで